

防災気象情報の活用

高松地方気象台

気象庁が提供する防災気象情報

「気象」特別警報・警報・注意報

◆特別警報(6種類)

重大な災害の起こるおそれ著しく大きい場合、その旨を警告して行う予報

大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪

◆警報(7種類)

重大な災害の起こるおそれがある場合、その旨を警告して行う予報

大雨、洪水、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪

◆注意報(16種類)

災害が起こるおそれがある場合、その旨を注意して行う予報

大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着雪、融雪、着氷

土砂災害警戒情報

◆大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町を特定して香川県と高松地方気象台が共同で発表します。

標題だけではなく内容の確認が大事

気象情報

◆24時間から2～3日先に災害に結びつくような激しい現象が発生する可能性のあるときに予告。

◆特別警報・警報・注意報の発表中に現象の経過、予想、防災上の留意点等を解説。

「全般気象情報」「四国地方気象情報」

「香川県気象情報」「顕著な大雨に関する気象情報」

指定河川洪水予報

◆洪水により重大な損害・相当な被害のおそれがある指定河川毎に、河川を管理する国土交通省や香川県と高松地方気象台が共同で洪水予報を発表します。

(標題) 氾濫注意情報／氾濫警戒情報／氾濫危険情報／氾濫発生情報
【指定河川】土器川、香東川

記録的短時間大雨情報

◆大雨警報発表中に、数年に一度しか発生しないような短時間の大雨(香川県の基準: 1時間90mm)を観測又は解析し、かつ、キキクル(危険度分布)の「危険」(紫)が出現している場合に発表します。

段階的に発表される防災気象情報を活用する（大雨の場合）

気象状況と気象台から発表する情報の活用例

大雨の数日～約1日前

気象情報
早期注意情報

雨が強くなると…
大雨の半日～数時間前

注意報

大雨になると…
大雨の数時間～2時間程度前

警報

大雨が一層激しくなると…

土砂災害警戒情報
指定河川洪水予報
(氾濫危険情報)
記録的短時間大雨情報

更に降り続けると…
広い範囲で数十年に一度の大雨

特別警報

大雨の可能性が高くなる
気象情報の内容を確認
「警報級の可能性」を把握

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18～6	朝～夜遅く 6～24				
大雨	—	[中]	[中]	—	—	—
大雪	—	—	—	—	—	—
暴風(暴風雪)	—	—	—	—	—	—
波浪	—	—	—	—	—	—

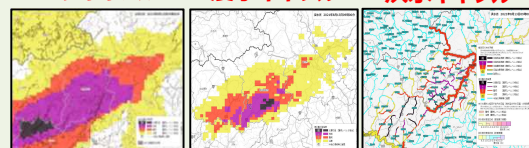
災害が起こるおそれがある
色分けした時系列を把握

発表中の 警報・注意報等の種別	今後の推移(■警報級 ■注意報級)										備考・ 関連する現象
	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6		
洪水 (洪水害)											

重大な災害が起こるおそれがある

キキクル(大雨警報・洪水警報の危険度分布)を把握

土砂キキクル 浸水キキクル 洪水キキクル



早め早めの
行動を！

命に危険が及ぶ災害がいつ発生
してもおかしくない

自治体からの避難指示の発令に留意するとともに、発令されていなくてもキキクル(危険度分布)や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください

災害がすでに発生している可能性が極めて高い
重大な危険が差し迫った異常事態

住民の行動

最新の防災気象情報等に留意する
など、災害への心構えを高める。



ハザードマップや避難先を確認

土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な箇所を把握、避難先、避難ルートを確認



災害が想定される区域等にお住まいの方や高齢者等は避難開始。
高齢者以外の方もキキクル等を参考に避難の準備や判断

地元自治体が発表する
避難情報に留意



安全な場所に速やかに避難

外出が困難な場合は、屋内でも2階以上等のなるべく安全なところへ退避

この状況になる
前に避難を完了



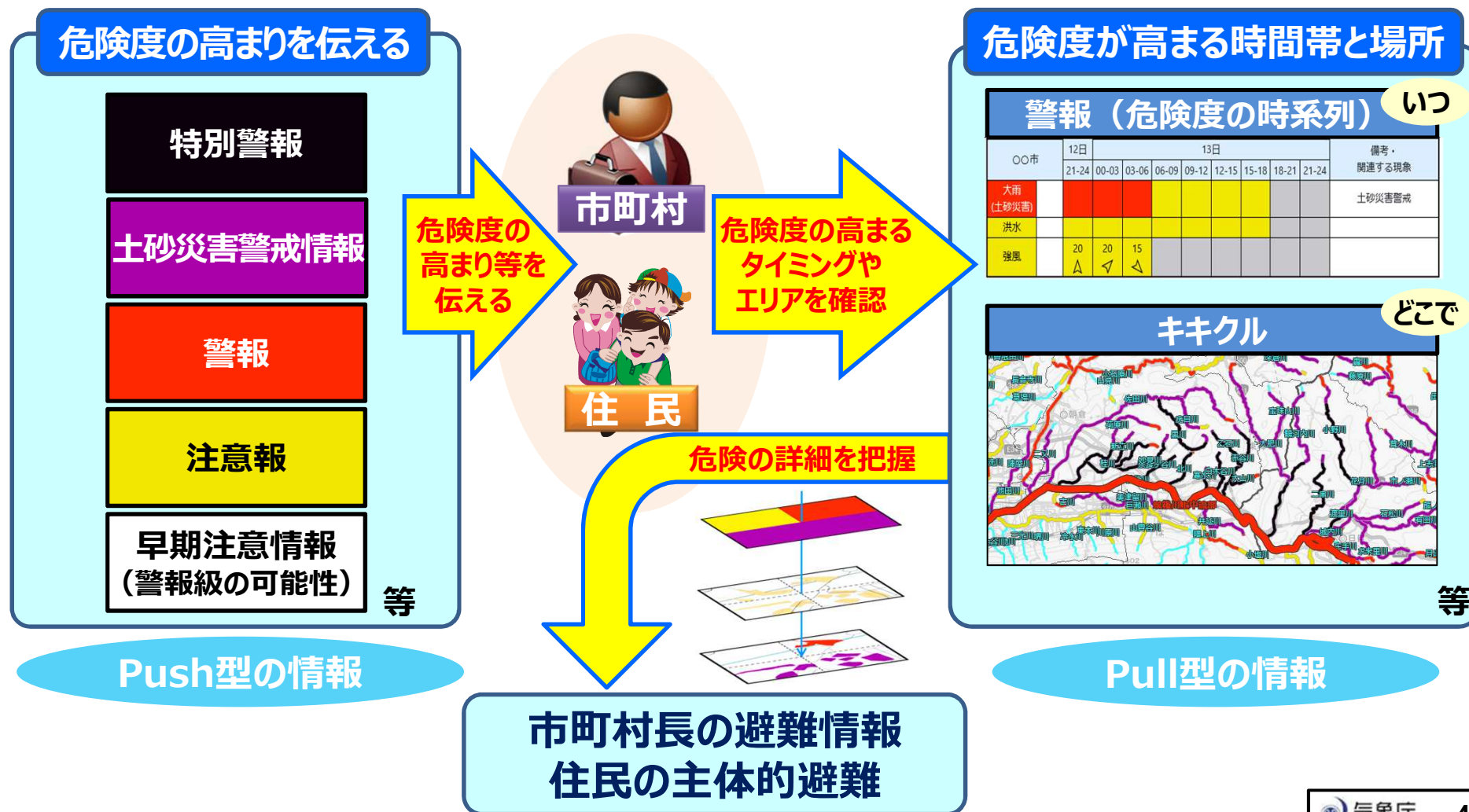
これまでに経験のない大雨

すでに安全な避難ができず、命の危険が迫っている状況

直ちに身の安全を確保

防災気象情報の活用（自らの地域に迫る危険を把握する）

警報等が発表されたときに、危険度が高まる時間帯と場所を一目で把握できる情報が提供されている。現地情報と合わせて用いることで、市町村や住民が、これまで以上に納得感を持って避難指示等の発令や避難開始を判断できるように。



キキクル（危険度分布）の表示

- 雨による災害の危険度を地図上にリアルタイム表示（気象庁ホームページ上で10分ごとに更新）
- 土砂災害・浸水害・洪水害それぞれの危険度を5段階に色分けして表示



「キキクル（危険度分布）」はスマートフォンでも確認できます

スマホのメニューボタン



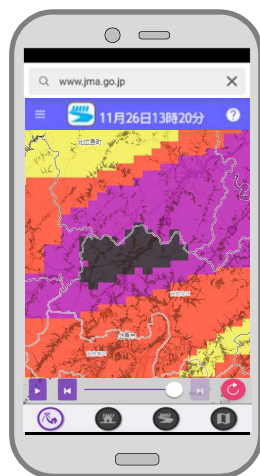
地図はそのまま、それぞれの危険度分布に切り替えます。

スマホの位置情報ボタン



今いる場所をアイコンで示します。

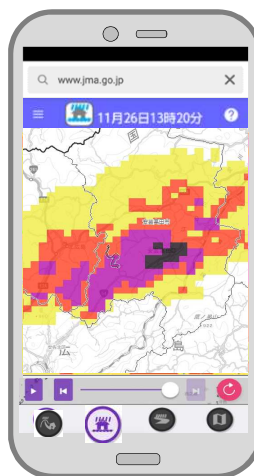
土砂キキクル （危険度分布）



- ・2時間先までの予測
- ・10分間隔で更新



浸水キキクル （危険度分布）



- ・1時間先までの予測
- ・10分間隔で更新



洪水キキクル （危険度分布）



- ・3時間先までの予測
- ・10分間隔で更新



土砂災害（崖崩れ、土石流）発生の危険度を5段階で表示します。

【崖崩れ】



【土石流】



浸水害（家屋浸水、道路冠水など）発生の危険度を5段階で表示します。



中小河川の洪水発生の危険度を5段階で表示します。



いつでも、どこでも スマートフォンでの利用がおすすめ！

防災気象情報の入手方法



どのような方法で
防災情報入手するか
今一度ご確認を!!

気象庁・気象台HP

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>



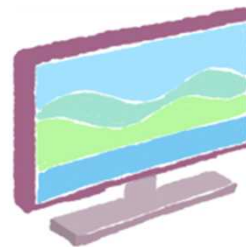
気象庁・気象台が発表する
情報を掲載しています。

都道府県・防災関係機関 市町村・消防本部など



広報車や防災無線などで放送される
ほか、**都道府県や市町村の中には
メールで送ってくれるサービス
をしているところもあります。**

テレビ・ラジオ



テレビ（データ放送（“dボタン”）
でも多くの情報が入手可能）や
ラジオなどで放送されます。

民間気象会社など

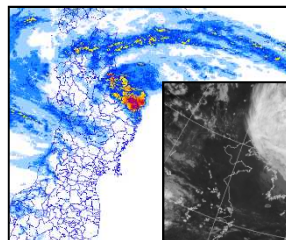


**メールで送ってくれる
サービスをしていると
ころもあります。**



地方気象台等

気象庁本庁



警報・注意報等の
防災気象情報発表

5段階の警戒レベルと防災気象情報

- 住民がとるべき行動を5段階に分け、防災気象情報と行動の対応、避難のタイミングを明確化。
- 防災気象情報と警戒レベルとの関係を明確化し、住民の自発的な避難判断等を支援。

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報	キキクル (危険度分布)	相当する警戒レベル
5	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	災害切迫 氾濫発生情報	5相当
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
4	・危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報 高潮警報 高潮特別警報	危険 氾濫危険情報	4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	※ 大雨警報 洪水警報 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	警戒 氾濫警戒情報	3相当
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 高潮注意報 大雨注意報 洪水注意報	注意 氾濫注意情報	2相当
1	災害への心構えを高める	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警報級の可能性)		

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。